

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年11月14日
【四半期会計期間】	第81期第2四半期（自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日）
【会社名】	T P R 株式会社
【英訳名】	TPR CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長兼COO 山岡 秀夫
【本店の所在の場所】	東京都千代田区丸の内一丁目6番2号 新丸の内センタービル
【電話番号】	(03)5293-2811(代表)
【事務連絡者氏名】	常務執行役員経理部長 小林 正幸
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区丸の内一丁目6番2号 新丸の内センタービル
【電話番号】	(03)5293-2811(代表)
【事務連絡者氏名】	常務執行役員経理部長 小林 正幸
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第80期 第2四半期連結 累計期間	第81期 第2四半期連結 累計期間	第80期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年9月30日	自平成25年4月1日 至平成25年9月30日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高(百万円)	67,664	70,705	133,605
経常利益(百万円)	5,878	7,243	11,833
四半期(当期)純利益(百万円)	3,204	3,441	5,569
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	4,638	14,225	14,092
純資産額(百万円)	43,550	68,095	54,403
総資産額(百万円)	132,095	165,134	148,008
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	91.40	97.83	158.67
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	91.23	97.65	158.47
自己資本比率(%)	27.2	33.4	29.4
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	3,610	5,730	10,263
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	8,124	5,174	12,475
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	6,363	254	8,652
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(百万円)	11,594	18,168	16,729

回次	第80期 第2四半期連結 会計期間	第81期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成24年7月1日 至平成24年9月30日	自平成25年7月1日 至平成25年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	48.72	52.63

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社における移動については、以下のとおりであります。

（アジア）

当第2四半期連結会計期間において、P T . N Tピストンリング インドネシアは株式売却のため、持分法適用の範囲から除外しております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

（1）業績の状況

当第2四半期連結累計期間を取り巻く経済環境は、日本においては金融緩和、公共事業、成長戦略の3本の柱とする経済政策により円安・株高が進み、国内経済は回復基調で推移しました。一方で円安による原油・原材料価格の上昇による不安材料が残る状況が続きました。海外では、北米経済は個人消費に支えられ堅調であったものの、長期化する欧州の債務問題や中国をはじめとする新興国経済の減速により、先行きに不透明感が残る状況で推移してまいりました。

当社グループが主として関連する自動車業界におきましては、国内ではエコカー補助金終了の反動、生産の海外シフトにより引き続き厳しい状況で推移しました。日系自動車の中国市場での回復により国内生産も緩やかに回復し、また海外でも経済の減速が懸念される中、成長市場での受注取込により売上高の拡大を図り、継続的な原価低減活動、固定費圧縮等を推進してまいりました結果、前年比増収、増益となりました。

当第2四半期連結累計期間の業績数値につきましては、次のとおりであります。

売上高	70,705百万円	（前年同期比	4.5%増）
営業利益	6,052百万円	（前年同期比	16.8%増）
経常利益	7,243百万円	（前年同期比	23.2%増）
四半期純利益	3,441百万円	（前年同期比	7.4%増）

セグメントの業績概況は、次のとおりであります。

< T P Rグループ（除くファルテックグループ）>

日本

昨年度後半に減速した国内自動車生産は緩やかに回復したものの、エコカー補助金終了の反動により、売上高は20,738百万円と前年同期に比べ487百万円の減収となりました。セグメント利益は原価低減効果、固定費圧縮効果により2,851百万円と前年同期に比べ514百万円の増益となりました。

アジア

アジア市場では、中国での自動車販売の伸びが鈍化するなか、安定した受注の確保により、売上高は9,142百万円と前年同期と比べ3,378百万円の増収となりました。セグメント利益は2,198百万円と前年同期と比べ911百万円の増益となりました。

北米

堅調な経済に支えられ、売上高は4,433百万円と前年同期と比べ657百万円の増収となりました。セグメント利益は新規生産拠点の立ち上げに伴う創業費用により111百万円の営業損失となり、前年同期と比べ308百万円の減益となりました。

その他地域

欧州市場では新規受注効果の影響により、売上高は995百万円と前年同期と比べ302百万円の増収となりました。セグメント利益は195百万円と前年同期と比べ98百万円の増益となりました。

< ファルテックグループ >

ファルテックグループでは、海外子会社が大きく伸長したものの、国内販売の落ち込みにより、売上高は35,395百万円と前年同期と比べ809百万円の減収となりました。セグメント利益は941百万円と前年同期と比べ267百万円の減益となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という)の残高は、前第2四半期連結累計期間末と比較して6,573百万円増加し、18,168百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、5,730百万円(前年同期比58.7%増)となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益が6,880百万円(同17.7%増)、減価償却費が3,506百万円等による収入、仕入債務の減少額が1,640百万円、法人税等の支払額が1,963百万円等による支出によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、5,174百万円(同36.3%減)となりました。これは主に有形及び無形固定資産の取得による支出が7,099百万円及び投資有価証券の売却による収入が1,546百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、254百万円(前年同期は6,363百万円の獲得)となりました。これは主に長期借入れによる収入が3,325百万円及び返済による支出が4,582百万円等によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において新たに発生した事業上及び財務上の対処すべき課題はございません。

なお、当社株式の大規模買付行為への対応策(買収防衛策)については以下のとおりであります。

1) 基本方針の内容

・基本方針

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者としては、当社の企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上に資する者が望ましいと考えております。もっとも、当社の株主の在り方について当社は、証券取引所への上場により株主は市場での自由な取引を通じて決まるものと考えておりますので、会社を支配する者の在り方は、最終的には株主の皆様全体の意思に基づき決定されるべきものと考えています。

・基本方針の実現に資する取組み

当社は、1939年の創業より培ってきた材料・加工・表面処理技術等のものづくりを原点とし、エンジン機能部品メーカーとして、ピストンリング、シリンダライナ、バルブシート等のパワートレイン部品で、世界のお客様に満足していただくべく努力してまいりました。当社の企業理念である、

わたくしたちは、

動力機構の高度化を原点として、無限の可能性に挑戦し、

優れた技術と価値ある商品の世界への提供を通じて、

クリーンで、クオリティの高い地球社会の実現に貢献します。

との精神のもと、事業を展開しています。

また、近年当社は事業の多角化を推進しており、非金属材料産業への参画を進めています。2012年4月には株式会社ファルテックに出資し、事業の柱の二本化を図っています。

1. 中長期経営戦略の策定

2012年度からスタートした「14中期経営計画」では、TPRグループが各方面のステークホルダーの皆様のご期待に応え、世界市場で生き抜き勝ち抜くため、下記目標と10項目の基本戦略を制定し推進していきます。

<目指す姿>

「技術力(Technology)・情熱(Passion)・信頼(Reliance)をもって、

さらなるグローバル化・事業の多角化を進め、

世界市場で勝ち抜くTPRグループの実現」

<合言葉>

“変革と創造：チェンジ&クリエイト”

2. コーポレートガバナンス(企業統治)の推進

当社は、企業理念(上記)を制定し、地球社会の一員としての企業を発展させるべく、コーポレートガバナンス(企業統治)の充実に努めています。

基本規程として「TPRグループコンプライアンス基本規程」を策定し、企業理念の精神を具体化した役員及び社員の行動指針として定めています。さらに、全社横断組織としてコンプライアンス委員会を設置するなど、企業統治に関する組織、規程を充実させ、企業の透明性、効率性、健全性を向上するべく推進しています。

経営の体制として、業務執行と監督機能区分を明確化するため、執行役員制度を平成17年より導入し、更に平成23年からは、会長兼CEOと社長兼COOを新設しました。また、平成19年から取締役会に社外取締役1名を導入、監査役会は4名の内2名を社外監査役とし、経営及び監査役監査の透明性、公平性を確保しています。

・基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み（以下「本対応策」という）

本対応策導入の目的

上記に述べた基本方針に照らして不適切な者によって大規模な当社株式の買付行為（以下「大規模買付行為」という）が行われ、当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組みとして導入したものです。

大規模買付ルールの概要

当社取締役会が設定する大規模買付ルールとは、事前に大規模買付行為を行う者（以下「大規模買付者」という）が取締役会に対して必要かつ十分な情報を提供し、取締役会による一定の評価期間が経過した後大規模買付行為を開始する、というものです。

大規模買付行為がなされた場合の対応

）大規模買付者が大規模買付ルールを遵守した場合

大規模買付者が大規模買付ルールを遵守した場合には、取締役会は、仮に当該大規模買付行為に反対であったとしても、当該買付提案についての反対意見を表明したり、代替案を提示することにより、株主の皆様を説得するに留め、原則として当該大規模買付行為に対する対抗措置はとりません。

）大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しない場合

大規模買付者により、大規模買付ルールが遵守されなかった場合には、取締役会は、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を守ることを目的として、新株予約権の無償割当等、会社法その他の法律及び当社定款が認める対抗措置をとり、大規模買付行為に対抗する場合があります。

）独立委員会の設置

対抗措置を講じるか否かについては、取締役会が最終的な判断を行います。本対応策を適正に運用し、取締役会によって恣意的な判断がなされることを防止し、その判断の客観性及び合理性を担保するため、独立委員会規程を定めるとともに、独立委員会を設置しました。

株主・投資家に与える影響等

大規模買付ルールは、当社株主の皆様が大規模買付行為に応じるか否かを判断するために必要な情報や、現に当社の経営を担っている当社取締役会の意見を提供し、株主の皆様が代替案の提示を受ける機会を保障することを目的としています。これにより株主の皆様は、十分な情報のもとで、大規模買付行為に応じるか否かについて適切な判断をすることが可能となり、そのことが当社の企業価値ひいては株主共同の利益の保護につながるものと考えます。

本対応策の適用開始、有効期限、継続及び廃止

本対応策は、平成19年2月8日に当社取締役会の決議をもって同日より発効し、平成19年6月28日に開催された第74回定時株主総会において承認いただいた後、さらに平成22年6月25日開催の第77回定時株主総会および平成25年6月27日開催の第80回定時株主総会において、平成28年6月開催予定の定時株主総会終結時までの有効期限内で継続承認いただいております。

・本対応策が基本方針に沿い、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に合致し、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものでないことについて

買収防衛策に関する指針の要件を充足していること

本対応策は、経済産業省及び法務省が平成17年5月27日に発表した企業価値・株主共同の利益の確保または向上のための買収防衛策に関する指針の定める三原則を充足しています。また、経済産業省に設置された企業価値研究会が平成20年6月30日に発表した報告書「近時の諸環境の変化を踏まえた買収防衛策の在り方」の内容も踏まえたものとなっています。

株主意思を重視するものであること

本対応策は、当社取締役会決議にて決定いたしました。平成19年6月28日開催の第74回定時株主総会、及び平成22年6月25日開催の第77回定時株主総会にて株主の皆様のご承認をいただいたことで、株主の皆様のご意向が反映されたものとなっております。

独立性の高い社外者の判断の重視と情報開示

本対応策における対抗措置の発動等の運用に際しての実質的な判断は、独立性の高い社外者のみから構成される独立委員会により行われることとされています。

また、その判断の概要については株主の皆様へ情報開示をすることとされており、当社の企業価値・株主共同の利益に適うように本対応策の透明な運用が行われる仕組みが確保されています。

合理的な客観的要件の設定

本対応策における対抗措置の発動は、上記「大規模買付行為が為された場合の対応」にて記載したとおり、合理的な客観的要件が充足されなければ発動されないように設定されており、当社取締役会による恣意的な発動を防止するための仕組みを確保しているものといえます。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発費は、1,856百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な影響はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	135,000,000
計	135,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	35,823,099	35,823,099	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	35,823,099	35,823,099	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、平成25年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

当第2四半期会計期間において発行した新株予約権は、次のとおりであります。

決議年月日	平成25年8月9日
新株予約権の数(個)	1,080
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(株)	108,000
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1,884 (注)
新株予約権の行使期間	自 平成27年7月1日 至 平成30年6月30日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 2,346 資本組入額 1,173
新株予約権の行使の条件	イ 取締役及び執行役員として任期満了による地位喪失後1年6ヶ月間は権利行使可能とします。 ロ その他の条件については、平成25年8月9日の取締役会決議に基づき、当社と対象取締役及び執行役員との間で締結した「新株予約権申込証兼新株予約権割当契約」に定めるところによるものとします。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権の譲渡、担保権の設定その他の処分及び相続は認めない。
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-

(注) 権利付与日以後、当社が時価を下回る価額で新株式を発行(新株予約権の行使の場合を含まない。)または自己株式の処分を行う場合は、1株当たりの行使価額を次の算式により調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げるものとします。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times \text{1株当たり払込金額}}{\text{1株当たり時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

また、権利付与日以後、当社が株式の分割または併合を行うときは、1株当たりの行使価額を分割または併合の比率に応じて比例的に調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げるものとします。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】
該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】
該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成25年7月1日～ 平成25年9月30日 (注)	44,000	35,823,099	27	4,487	27	3,589

(注) 新株予約権の行使による増加であります。

(6) 【大株主の状況】

平成25年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (百株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1-8-11	52,327	14.61
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2-1-1	24,104	6.73
株式会社損害保険ジャパン	東京都新宿区西新宿1-26-1	22,930	6.40
トヨタ自動車株式会社	愛知県豊田市トヨタ町1	20,706	5.78
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区丸の内1-3-3	15,188	4.24
ヒューリック株式会社	東京都中央区日本橋大伝馬7-3	12,318	3.44
日本マスタートラスト信託銀 行株式会社	東京都港区浜松町2-11-3	11,115	3.10
T P R取引先持株会	東京都千代田区丸の内1-6-2	10,581	2.95
みずほ信託銀行株式会社	東京都中央区八重洲1-2-1	10,123	2.83
THE CHASE MANHATTAN BANK NA LONDON	WOOLGATE HOUSE, COLEMAN STREET LONDON EC2P 2HD, ENGLAND	9,710	2.71
計	-	189,102	52.79

(注) 上記所有株式数のうち信託業務に係る株式数は、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社52,327百株、明治安田生命保険相互会社154百株、日本マスタートラスト信託銀行株式会社11,115百株、みずほ信託銀行株式会社2,463百株であります。

(7)【議決権の状況】
【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 616,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 35,179,200	351,792	-
単元未満株式	普通株式 27,399	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	35,823,099	-	-
総株主の議決権	-	351,792	-

(注)単元未満株式数には当社所有の自己株式83株が含まれております。

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
T P R株式会社	東京都千代田区丸の内1-6-2 新丸の内センタービル	616,500	-	616,500	1.72
計	-	616,500	-	616,500	1.72

(注)当第2四半期会計期間末の自己株式数は616,583株であります。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	16,910	18,324
受取手形及び売掛金	30,717	31,312
商品及び製品	7,561	8,505
仕掛品	2,654	3,014
原材料及び貯蔵品	3,643	3,885
その他	4,852	5,326
貸倒引当金	205	186
流動資産合計	66,136	70,183
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	13,625	15,181
機械装置及び運搬具(純額)	15,985	20,081
その他(純額)	17,037	16,948
有形固定資産合計	46,647	52,210
無形固定資産		
のれん	3,107	2,715
その他	1,932	1,728
無形固定資産合計	5,039	4,444
投資その他の資産		
投資有価証券	20,244	26,246
前払年金費用	884	1,202
その他	10,161	11,953
貸倒引当金	1,105	1,105
投資その他の資産合計	30,185	38,296
固定資産合計	81,872	94,951
資産合計	148,008	165,134

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	19,646	19,435
短期借入金	26,219	28,830
未払法人税等	1,665	1,712
賞与引当金	1,957	1,973
環境対策引当金	118	103
その他	7,725	7,384
流動負債合計	57,333	59,440
固定負債		
長期借入金	20,695	19,580
退職給付引当金	8,449	8,306
役員退職慰労引当金	676	745
関連事業損失引当金	265	248
環境対策引当金	18	18
訴訟損失引当金	331	331
資産除去債務	139	137
その他	5,694	8,230
固定負債合計	36,271	37,598
負債合計	93,604	97,039
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,457	4,487
資本剰余金	3,639	3,670
利益剰余金	31,163	34,127
自己株式	915	916
株主資本合計	38,344	41,368
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,592	11,759
繰延ヘッジ損益	17	3
為替換算調整勘定	1,410	2,038
その他の包括利益累計額合計	5,164	13,794
新株予約権	29	26
少数株主持分	10,865	12,906
純資産合計	54,403	68,095
負債純資産合計	148,008	165,134

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
売上高	67,664	70,705
売上原価	52,244	54,067
売上総利益	15,420	16,638
販売費及び一般管理費	10,238	10,585
営業利益	5,181	6,052
営業外収益		
受取利息	16	20
受取配当金	109	121
持分法による投資利益	971	873
為替差益	-	302
その他	192	316
営業外収益合計	1,288	1,634
営業外費用		
支払利息	317	331
為替差損	160	-
その他	113	111
営業外費用合計	591	442
経常利益	5,878	7,243
特別利益		
新株予約権戻入益	2	-
特別利益合計	2	-
特別損失		
固定資産除却損	25	44
投資有価証券評価損	8	106
投資有価証券売却損	-	212
特別損失合計	34	363
税金等調整前四半期純利益	5,847	6,880
法人税、住民税及び事業税	1,423	2,017
法人税等調整額	323	215
法人税等合計	1,747	2,233
少数株主損益調整前四半期純利益	4,099	4,647
少数株主利益	894	1,206
四半期純利益	3,204	3,441

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	4,099	4,647
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	411	5,152
繰延ヘッジ損益	12	11
為替換算調整勘定	58	3,053
持分法適用会社に対する持分相当額	80	1,360
その他の包括利益合計	539	9,577
四半期包括利益	4,638	14,225
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,688	12,070
少数株主に係る四半期包括利益	949	2,154

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	5,847	6,880
減価償却費	3,448	3,506
のれん償却額	449	383
持分法による投資損益(は益)	971	873
貸倒引当金の増減額(は減少)	2	21
退職給付引当金の増減額(は減少)	499	534
賞与引当金の増減額(は減少)	232	15
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	60	69
環境対策引当金の増減額(は減少)	50	15
その他の引当金の増減額(は減少)	-	17
受取利息及び受取配当金	125	141
支払利息	317	331
為替差損益(は益)	71	206
固定資産除却損	25	44
投資有価証券評価損益(は益)	8	106
投資有価証券売却及び評価損益(は益)	-	212
売上債権の増減額(は増加)	1,768	915
たな卸資産の増減額(は増加)	818	686
仕入債務の増減額(は減少)	2,659	1,640
その他	637	656
小計	5,998	7,673
利息及び配当金の受取額	455	698
利息の支払額	313	349
供託金の預入による支出	-	329
法人税等の支払額	2,530	1,963
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,610	5,730
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	664	4
定期預金の払戻による収入	210	51
有形及び無形固定資産の取得による支出	4,034	7,099
有形及び無形固定資産の売却による収入	580	632
投資有価証券の取得による支出	1,685	290
投資有価証券の売却による収入	200	1,546
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	2,581	-
貸付けによる支出	249	153
貸付金の回収による収入	113	141
その他	15	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	8,124	5,174

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	1,298	1,949
長期借入れによる収入	12,148	3,325
長期借入金の返済による支出	3,516	4,582
リース債務の返済による支出	636	549
株式の発行による収入	98	47
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	385	421
少数株主からの払込みによる収入	109	348
少数株主への配当金の支払額	155	371
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,363	254
現金及び現金同等物に係る換算差額	27	647
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	1,821	949
現金及び現金同等物の期首残高	8,827	16,729
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	945	489
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,594	18,168

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第2四半期連結累計期間
(自 平成25年4月1日
至 平成25年9月30日)

1. 連結の範囲に関する事項の変更

(1) 連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、T P R フェデラル・モーグル テネシー社は重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

(2) 変更後の連結子会社の数

32社

2. 持分法適用の範囲の重要な変更

当第2四半期連結会計期間において、P T . N T ピストンリング インドネシアは株式売却のため、持分法適用の範囲から除外しております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第2四半期連結累計期間
(自 平成25年4月1日
至 平成25年9月30日)

(税金費用の計算)

税金費用については、一部の連結子会社において、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

連結会社以外の次の関係会社について、金融機関からの借入に対して債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
Y & Tパワーテック社	809百万円	724百万円
(株)いしかわファルテック	563	536
ファルテックSRGグローバル(タイラ ド)社	-	248
柳伯安麗活塞環有限公司	321	336
計	1,693	1,847

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
賞与引当金繰入額	420百万円	387百万円
役員退職慰労引当金繰入額	68	75
退職給付引当金繰入額	122	126
発送費	1,940	2,119
従業員給料手当	2,318	2,372
研究開発費	1,287	1,237

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
現金及び預金勘定	12,188百万円	18,324百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	593	155
現金及び現金同等物	11,594	18,168

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	385	11.0	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年11月9日 取締役会	普通株式	421	12.0	平成24年9月30日	平成24年12月4日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	421	12.0	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年11月12日 取締役会	普通株式	457	13.0	平成25年9月30日	平成25年12月16日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						合計
	T P Rグループ(除くファルテックグループ)					ファルテック グループ	
	日本	アジア	北米	その他地域 (注)	計		
売上高							
外部顧客への売上高	21,226	5,763	3,776	692	31,459	36,205	67,664
セグメント間の内部売上 高又は振替高	2,485	745	23	22	3,276	0	3,277
計	23,711	6,509	3,799	715	34,735	36,205	70,941
セグメント利益	2,337	1,287	197	97	3,919	1,209	5,128

(注)「その他地域」の区分は、欧州の現地法人の事業活動であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	5,128
セグメント間取引消去	28
未実現利益の調整額	24
四半期連結損益計算書の営業利益	5,181

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当社は、平成24年4月5日に株式会社ファルテックの株式を取得し、当社の連結子会社としました。なお、「ファルテックグループ」セグメントにおいて、当該事象によるのれんの発生額は4,371百万円であり、当第2四半期連結累計期間における償却額は437百万円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間（自平成25年4月1日 至平成25年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント						合計
	T P Rグループ（除くファルテックグループ）					ファルテック グループ	
	日本	アジア	北米	その他地域 （注）	計		
売上高							
外部顧客への売上高	20,738	9,142	4,433	995	35,310	35,395	70,705
セグメント間の内部売上 高又は振替高	3,706	761	16	27	4,511	0	4,512
計	24,444	9,904	4,450	1,022	39,821	35,396	75,217
セグメント利益又は損失 （ ）	2,851	2,198	111	195	5,134	941	6,075

（注）「その他地域」の区分は、欧州の現地法人の事業活動であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	6,075
セグメント間取引消去	86
未実現利益の調整額	110
四半期連結損益計算書の営業利益	6,052

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年 9 月30日)
(1) 1 株当たり四半期純利益金額	91円40銭	97円83銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額 (百万円)	3,204	3,441
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額 (百万円)	3,204	3,441
普通株式の期中平均株式数 (千株)	35,062	35,793
(2) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額	91円23銭	97円65銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額 (百万円)	-	-
普通株式増加数 (千株)	63	63
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

(1) 平成25年11月12日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額.....457百万円

(ロ) 1 株当たりの金額.....13円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成25年12月16日

(注) 平成25年 9 月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

(2) 訴訟の判決及びその控訴

当社の連結子会社である㈱アルティアは、平成20年 3 月28日付で、国及び軽自動車検査協会より不当利得返還請求に関する訴訟の提起を受けておりましたが、平成25年 4 月24日に東京地方裁判所から判決を受けました。

その内容は以下のとおりであります。

判決の内容

本件訴訟に関して、第一審東京地方裁判所は、平成25年 4 月24日に㈱アルティアに対して、不当利得返還請求額201百万円及び付帯する年 5 分の遅延金の支払を命じるものであります。

今後の見通し

㈱アルティアは、この判決を不服として平成25年 5 月 8 日付で東京高等裁判所に控訴しており、引き続き裁判で同社の正当性を主張し争っていく方針であります。

なお、同社は、東京地方裁判所の一審の判決どおりに確定した場合に備え、訴訟損失引当金331百万円を計上しております。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月13日

T P R株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中村和臣

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 渥美龍彦

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているT P R株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、T P R株式会社及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。